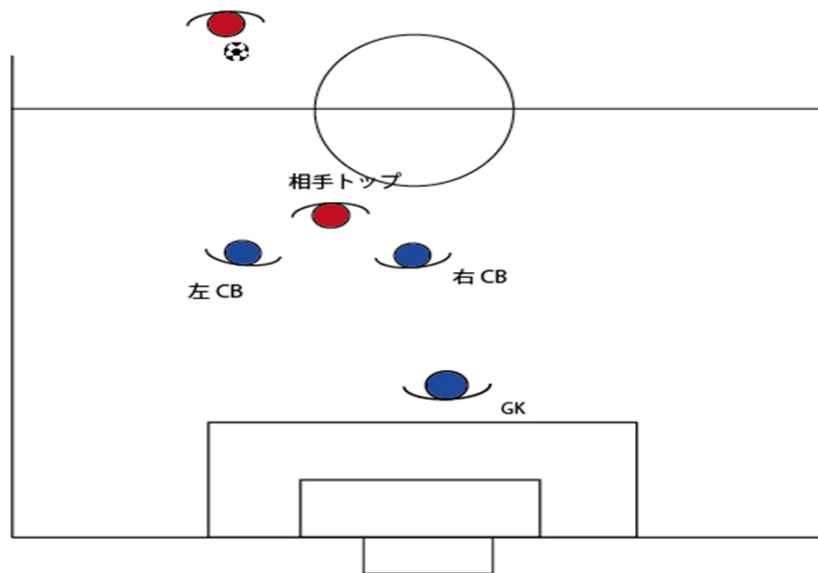


## ディフェンスの基本 マンツーマン併用型 ジュニア8人制の場合

### 最終ラインで数的優位「1」を作る

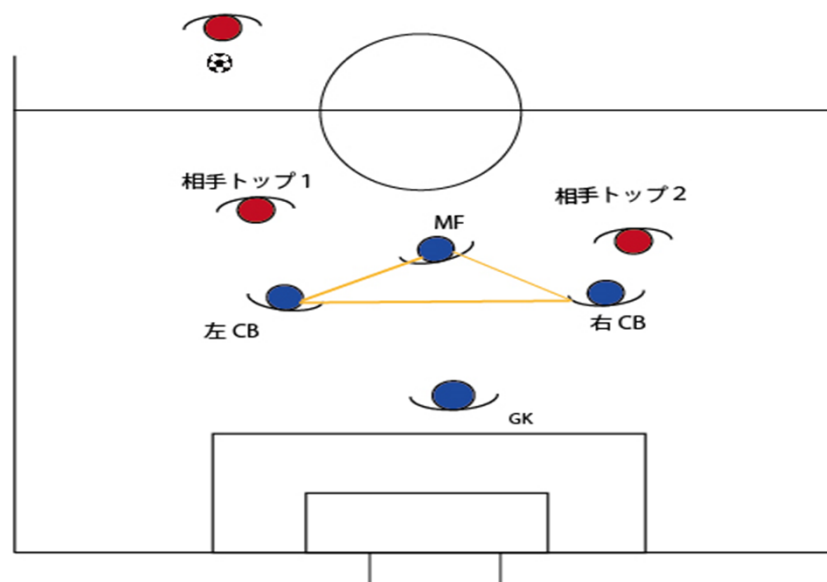
#### 相手がワントップの場合

CBの二人で相手のワントップに対応します。



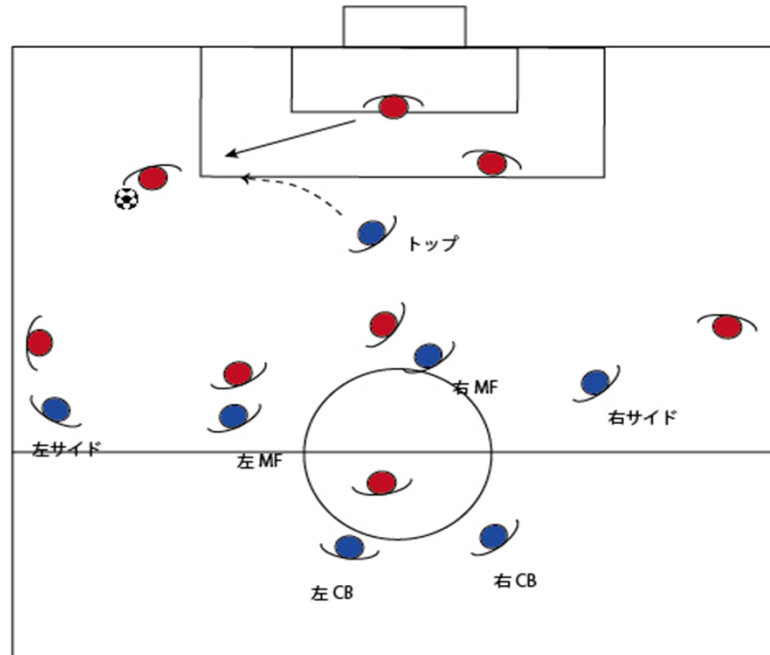
#### 相手がツートップの場合

CBの二人に加え、MFの一人が下がり目のポジションを取って数的優位を確保します。



## ビルドアップに対するディフェンス

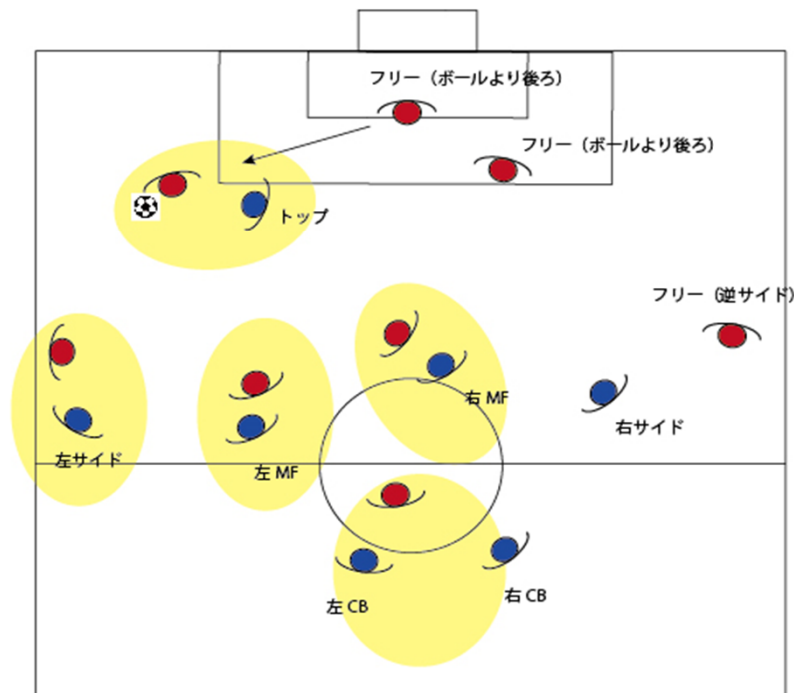
相手がディフェンスラインからビルドアップを試みる場合、まずトップがプレスにいきます。



## ボールより後ろと逆サイド以外をマンツーマンでマーク

この時、最終ラインでは数的優位「1」を確保したまま、ボールより前の相手に対してマンツーマンになるようポジションを取ります。

「ボールより後ろ」と「逆サイド」の相手はとりあえずフリーにしておきます。

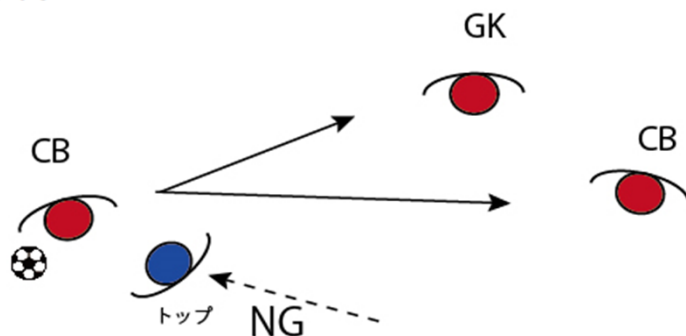


## トップの役割と注意点

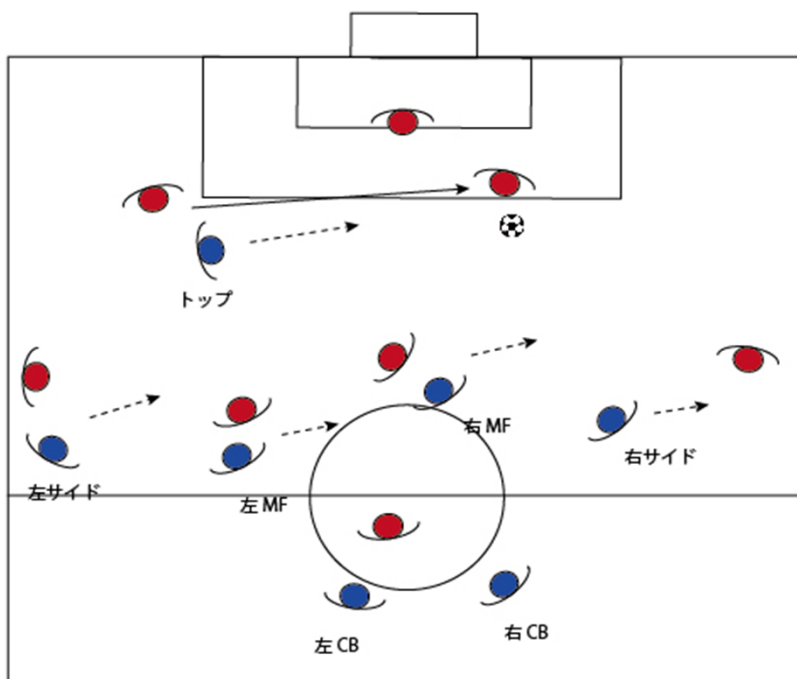
- トップのディフェンスはボールを奪うことではなく、方向を限定することが目的

今の場合、GKからパスを受けたCBがGKにパスを返せないようにします。

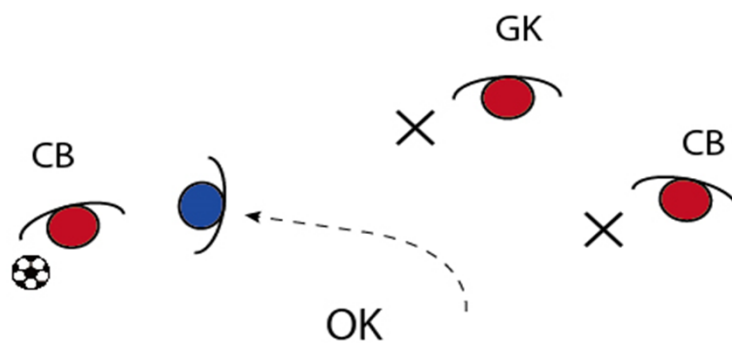
トップがこのようにプレスにいとてしまうと、CBからGK、CBからCBへ簡単につながれて（サイドを変えられて）しまいます。



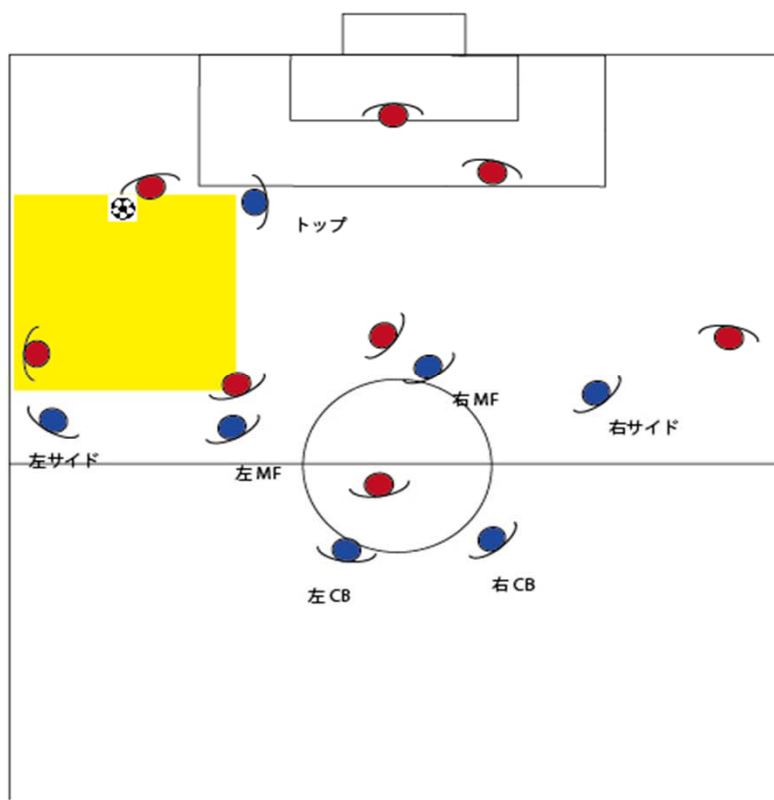
サイドを変えられてしまうと、全体がスライドしなければならず、チームのエネルギーを消耗します。



そのため、トップは「ボールを奪う」より「サイドを変えられない」ことを優先します。



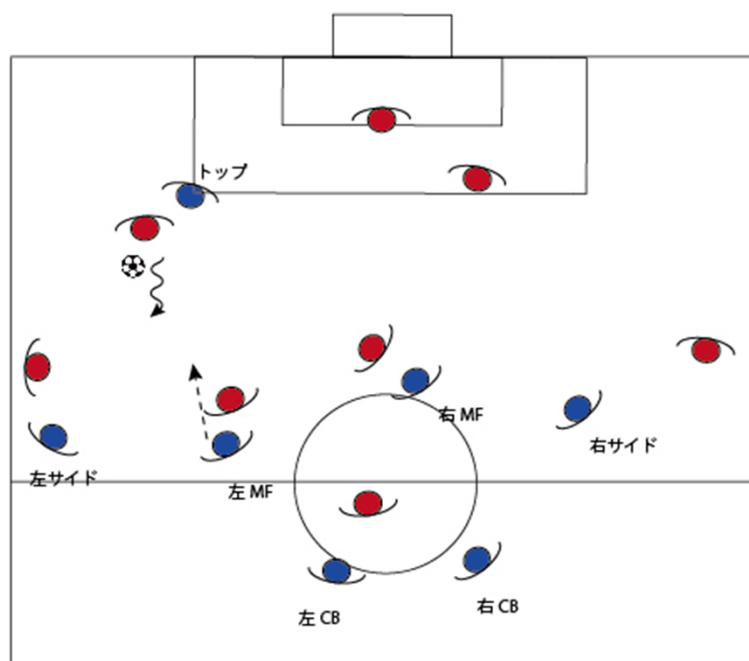
サイドを限定することで、黄色のスペースを徐々に狭くしてボールを奪うと明確に意思統一しましょう。



## 相手センターバックがドリブルでボールを運んだ場合

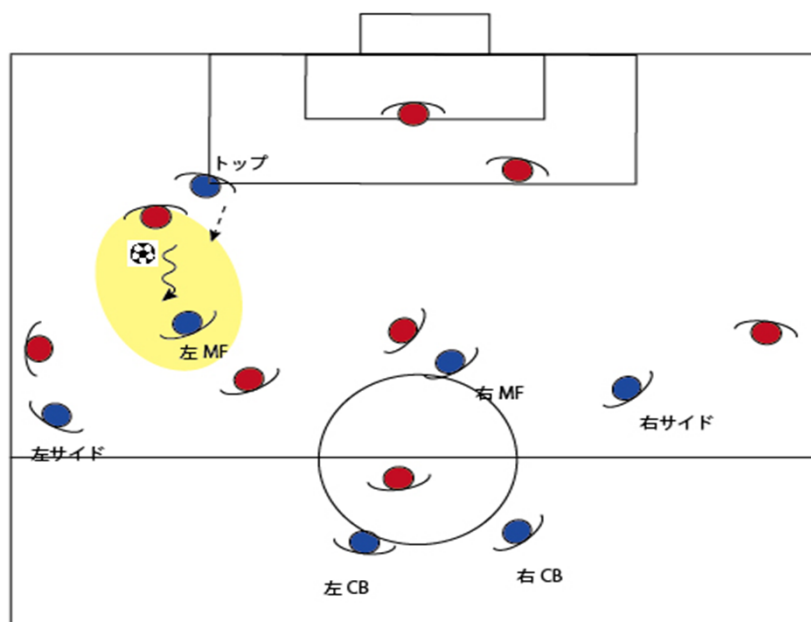
トップが「サイドを変えられないディフェンス」をすると、センターバックがドリブルを始め、トップは後ろから追いかける形が多くなります。

前進するセンターバックに対して、左MFが寄せ、戻ってくるトップと挟みます。

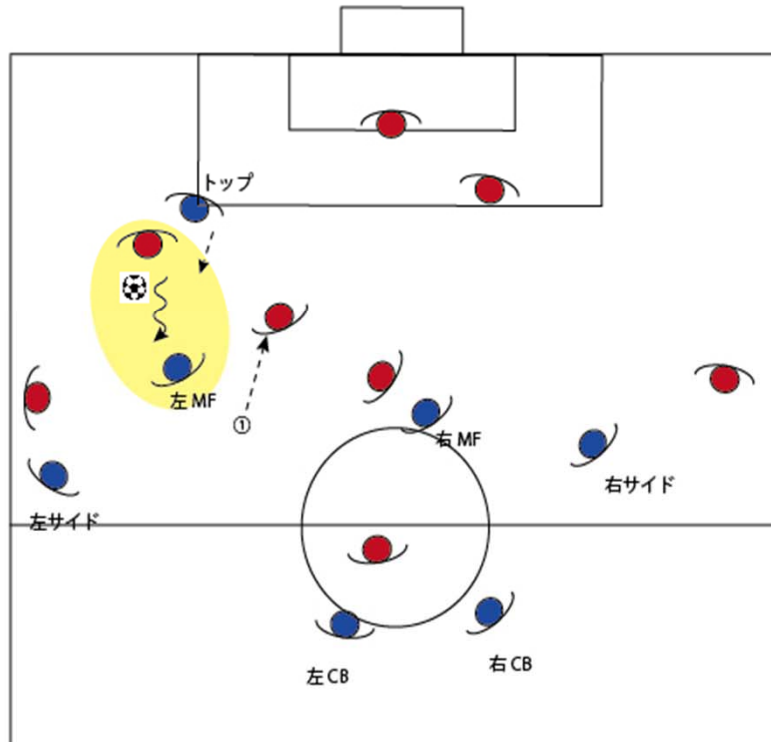


### 左MFの注意点

- 自分のマークへのパスコースを切りながらプレスに行く
- ボールを奪うことより、ドリブルする相手に縦に抜かれないことを優先する
- トップが戻る時間を稼ぐ

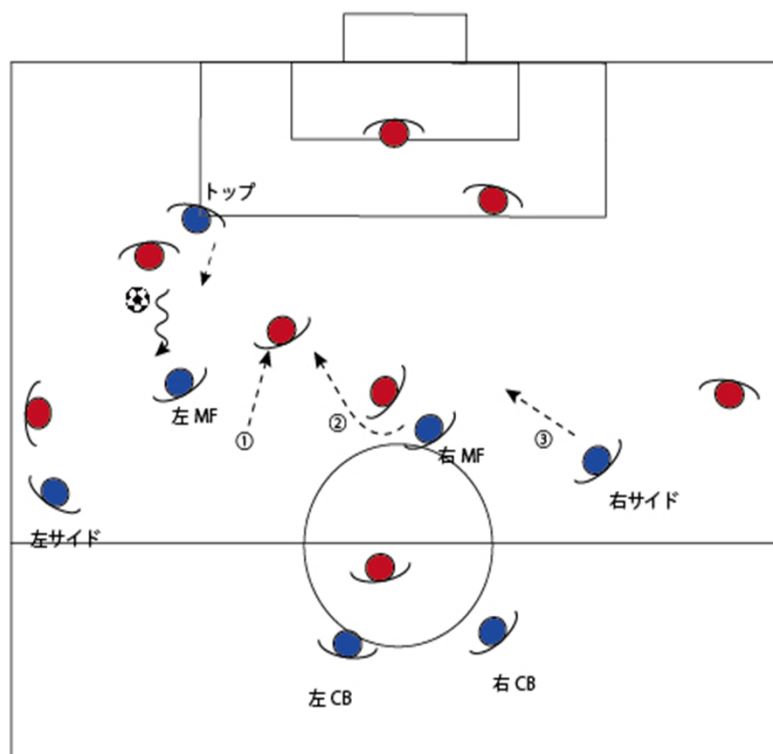


相手チームのビルドアップ能力が高いと、パスコースを切られた選手は動き直してパスコースを作るはず(1)。



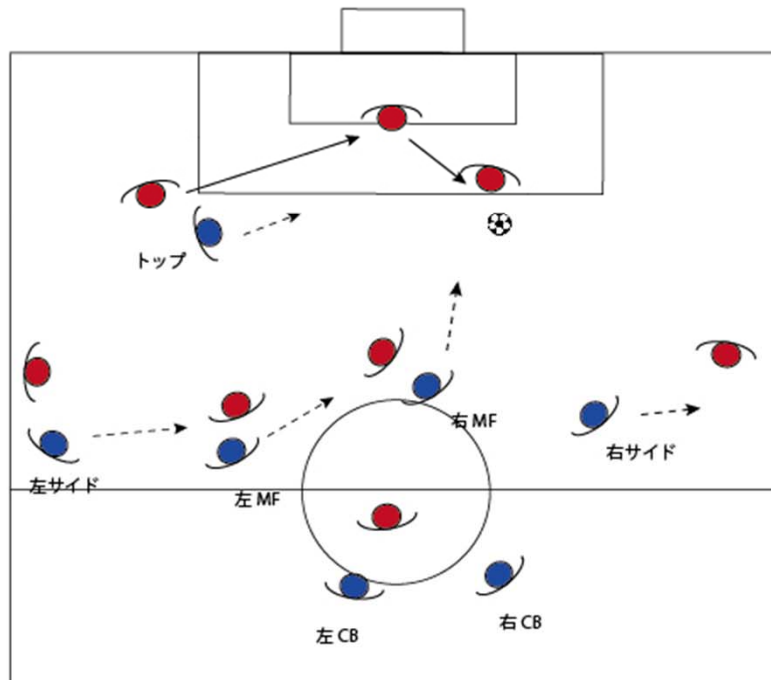
この場合は右MFが自分のマークへのパスコースを切りながら、フリーになった相手にプレスにいきます(2)。

この状態になれば、高い確率でボールを奪えるはず(2)。



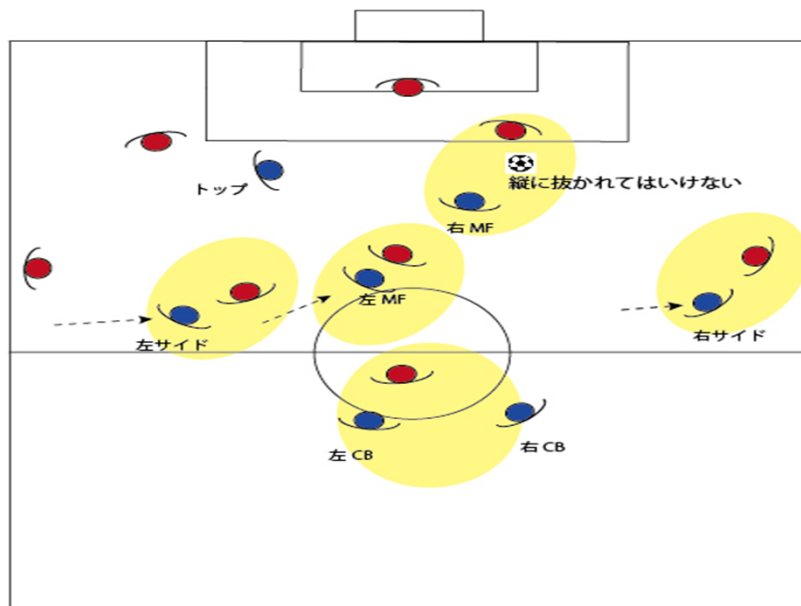
## サイドを変えられてしまった場合

トップがこのボールを追いかけてしまつては消耗が激しいので、右MFが前に出ます。  
 トップは再びサイドを変えられないような（GKとCBの両方にプレスにいける）ポジションを取ります。



右MFは縦に抜かれないディフェンスをします。  
 同時に「ボールより前」がマンツーマンになるよう全体がスライドします。

「逆サイド」と「ボールより後ろ」はフリーで構いません。



最終ラインでは数的優位を確保したままです。  
 もし最終ラインで数的同数になってしまうと、1対1の状態では、裏への長いパス1本で危険な状態になってしまいます。